

組織の目標設定シート(行政経営Aシート)

組織	文化振興課
職	課長
氏名	宮崎 高裕

組織の使命・役割	何のために我が組織が存在するのか、我が組織が果たすべき使命・役割は何か
本県には、藩政期以来培われてきた加賀百万石の伝統文化が今も息づくなど、多様で質の高い文化があふれている。この本県の優れた文化に一層磨きをかけ、県民共通の財産として次の世代へ確実に引き継いでいくとともに、新たな文化の創造に取り組んでいく必要がある。このため、文化振興の拠り所となる「いしかわ文化振興条例」に基づき、東京オリンピック・パラリンピックも見据え、さらなる文化の高みと裾野の拡大を目指し、文化の担い手である県民の文化活動を積極的に支援するなど、文化振興施策を効果的に推進していく。	

組織の目標	使命・役割を果たす上で、我が組織が目指すゴール(成果)は何か、その目標値はどのような水準か				
(定性的目標)	何をどのような状態にしたいか				
①工芸館開館に向けたイベント等の開催 ②いしかわの優れた文化の創造と発信					
(定量的目標)	具体的な指標、目標値を設定する				
目標とする成果指標	現行値	年(度)	目標値	年(度)	目標値の設定根拠(他県との比較など)
①兼六園周辺文化施設入館者数(5施設)	976,144	H30 年度	913,000	R4 年度	各館の独自企画及び連携強化による誘客対策等により、過去平均実績並以上でかつ中期経営目標の数値とする。
②音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	111,603	H30 年度	112,000	R4 年度	各施設の公演内容の充実、営業活動による貸館の利用促進により、入場者数を過去平均実績並以上でかつ中期経営目標の数値とする。



令和元年度に重点的に取り組むべき課題	左記の具体的な内容を記載する
①工芸館開館に向けたイベント等の開催	国立工芸館が所蔵する作品を紹介する名品展や石川の工芸の歴史を巡る特別展を開催するほか、首都圏においても石川の工芸のPRイベントを開催するなど、工芸館開館に向けた気運醸成を図るとともに、本県の工芸文化の魅力を発信する。 さらに、ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックを控え、外国人観光客のさらなる増加が見込まれることから、外国人向けに兼六園周辺文化の森で様々な文化体験イベントや観光ガイド付きツアーを実施するなど、外国人が本県文化を体験する機会の充実を図る。
②いしかわの優れた文化の創造と発信	本県には、音楽、美術、演劇といった芸術のほか、藩政期以来培われてきた伝統芸能や伝統工芸、生活文化など、多彩な文化があふれており、これらの優れた文化を県民共通の財産として次代に継承し、さらなる発展につなげていく必要がある。 このため、美術館や歴史博物館等の企画展の充実による芸術の振興や、「観能の夕べ」の開催による鑑賞機会の充実・「金沢芸妓の舞」をはじめとする発表の場の充実など、伝統芸能の振興を図る。また、文化立県・石川の「知の殿堂」となる新たな県立図書館の整備の推進、さらに、「いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭」をはじめとする県立音楽堂を中心とした魅力ある音楽イベントを開催することにより、県民の文化に親しむ機会の充実を図るとともに、本県の優れた文化の発信に取り組む。